

競技・審判上の注意

- 1 本大会は、平成 29 年度（公財）日本バドミントン協会競技規則、同大会運営規程、同公認審判員規程により行います。
- 2 棄権をする場合、各県代表者もしくは当該プレーヤーは、選手受付か大会本部またはレフェリーへ、棄権用紙に必要事項を記入しその旨を申し出て下さい。尚、当該種目のみを棄権し、他の種目へのエントリーを認めるかどうかの判断は、レフェリーに委ねるものとする。
- 3 競技の品位を保つため、色付き着衣を使用する場合は（公財）日本バドミントン協会の審査合格品とし、上衣背面中央に都道府県名もしくはチーム名を必ず明記して下さい。（表示については大会運営規程第 23 条を順守して下さい。広告・ロゴ等の表示は 24 条（1）に定める通りとします。）
- 4 試合の進行は、試合番号順に空いたコートから入れる流し込み方式で行います。試合のコール後 5 分を経過しても当該選手がコートに入らない場合はレフェリーの判断により「棄権」とみなします。
- 5 試合の進行状況により、試合開始時刻やコートを変更して試合を行うことがあります。選手は原則として試合開始 1 時間前には試合会場にて待機して下さい。（ただし、競技 1 日目、2 日目の第一試合はこの限りではありません。）
- 6 試合が連続する場合は、原則として試合終了後 15 分の間隔を空け次の試合を始めます。
- 7 試合前の練習時間を設けませんが、競技日ごと当該種目の初戦（シードを含む）のみ 3 分間の練習を認めます。主審の指示に従って下さい。（シングルスの場合、対戦相手同士で行って下さい。）
- 8 審判構成は主審・線審 2 名・得点表示係 1 名とし、サービスジャッジは原則として配置しません。また、本大会は敗者審判制で行いますので、敗者は試合を行ったコートで次の試合の線審を担当して下さい。シングルスの場合、不足する線審は主催者側で配置します。
- 9 シャトルの交換は、主審が必要かどうかを決定します。
- 10 試合中の水分補給、汗拭き、ラケットの交換、靴ひもの締め直し等、プレーを中断する場合は、必ず主審の許可を得て下さい。尚、氷嚢の使用はインターバル中のみ認めます。
 - (1) 蓋付きボトルのみの使用を許可します。ボトルは必ず所定のカゴに入れて下さい。
 - (2) 競技フロア内へのクーラーボックスの持ち込みは認めません。尚、氷嚢はコーチ席で小型の保冷バック（ソフトバック）等に入れ保管下さい。
- 11 試合中のけがや病気については、主審の判断により競技委員長（レフェリー）が呼ばれ競技委員長（レフェリー）がその判断をします。尚、試合中のけがや病気の応急処置は主催者が行いますが、その後の処理は各自の責任とします。
- 12 各コートバックバウンダリーライン後方に、コーチ席を 2 席設置します。

コーチ席に入る者はふさわしい服装（スリッパ・サンダル・短パン不可）で臨んでください。試合中、インプレーでない時のアドバイスはコーチ席に座って行い、試合中はコートのそばに立ってはいけません。また、監督・コーチ等が他のコートに移動したいときは、必ずインプレーでないときに行ってください。
- 13 競技規則で認められたインターバル時に、競技区域に入れるのは 2 人までとします。
- 14 選手ならびに監督・コーチが競技フロア内で携帯電話・モバイル機器等を使用することを禁止します。
- 15 競技委員長（レフェリー）により失格を宣言されたプレーヤーは、今大会でエントリーしている全ての種目において失格となります。
- 16 選手は、試合終了時に主審と握手するよう心掛けて下さい。
- 17 競技会場内では、携帯電話の電源を切るかマナーモードにして下さい。